

処理水放出、3回目開始

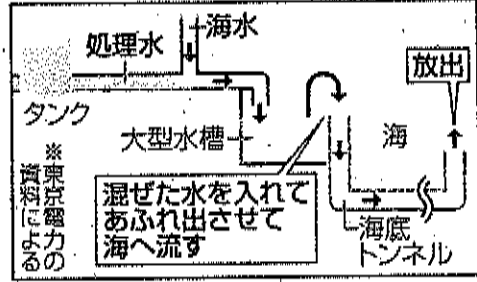
福島第1原発 20日までに7800トン

東電

東京電力は2日、福島第1原発処理水の3回目の海洋放出を始めた。20日までに過去2回と同様、約7800トンを放出する。放出に反発する中国による日本産水産物の輸入停止は続いており、東電は水産業者からの

賠償請求を受け付ける一方、放出は計画通りに進める。事前の分析で、放出予定の処理水は、放射性物質の濃度が国や東電が定めた基準を下回っていた。大量の海水で薄めて大型水槽に入れ、放射性物質トリチウム

処理水放出の流れ(イメージ)



の濃度が1リットルあたり1500 becquerels未満(国の基準の40分

の1)と確認した処理水1リットルから放出を始めた。1日460トンのペースで、海底トンネルを通じて沖合約1キロから流す。

海洋放出は8月に開始。計画では2023年度は4回に分けて約3万1200トンを放出する。これまで原発周辺で採取した海水から最大で1リットルあたり22 becquerelsのトリチウムを検出したが、世界保健機関(WHO)の飲

料水基準(1万 becquerels)を大きく下回っている。

東電は、処理水放出による風評被害と合わせ、中国を念頭に「外国政府の禁輸措置等による被害」も賠償するとしており、専用電話で受け付けるほか、宮城県石巻市に相談窓口を設けた。中国は放出に反対し、長期的な国際モニタリングと周辺国の適切な参加が必要だと主張している。